

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム シリウス奥州

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500030		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス奥州		
所在地	023-0065 岩手県奥州市水沢字水山4-1		
自己評価作成日	令和4年10月 日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域との共生 地域との交流や保育園との交流 ホームの行事、地域の行事、保育園の行事でお互いに参加、協力関係が出来てきている。消防訓練等へ地域住民に参加いただいており、ホームからは地域の文化祭や運動会に利用者様とともに参加している。民区の草取り等へ参加など協力関係が出来ている。
 (新型コロナウイルス流行後は交流の大半は自粛している。今年度の参加は草取り地区清掃のみ)
 ○経験豊富な職員が多く、正社員は皆介護福祉士を取得している。パートの方2名も含めて、指示がなくとも、その場の職員で話あって自発的に考え、行動することが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から分岐した主要道沿いの住宅街に位置し、近くには学校、神社、公園がある。利用者は全員女性で以前は調理などの活動に参加していたが、高齢化が進んだ現在は洗濯物たたみや雑巾がけ、居室清掃などを意欲的に手伝っている。職員はベテランが多く、自由に意見やアイデアを出し合い、職員間で話し合って日々の活動や行事等に生かしている。コロナ禍で外出が制限されることが多いが、屋外での活動も多く取り入れ利用者の生活が単調にならないよう取り組んでいる。10数年かけて築いた地域との関係の維持に努め自治会の一員としての活動を継続し、地域で共に暮らすという理念の実現に向け職員一丸となって取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念等を事務所内に掲げ、常に確認出来る様にしている。	15年前の開設時に管理者と職員が話し合い定めた、「家庭的な雰囲気の中で、地域とともに暮らし、人として尊厳のある生き方を支援します。」を理念とし、年度当初、職員間で確認のうえ共有し事業計画を作成している。今後、定例のスタッフ会議で再確認し支援計画への反映、日常の支援の振り返りを行うこととしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、利用者、職員共に積極的に参加、交流していた。コロナ禍でも地区清掃、草取りには参加している。	コロナ禍前は、ホーム、地域、近隣の保育園の行事にお互い参加し合う関係にあったが、感染症防止のため中断しており、現在は、地域の自治会の一員として地区清掃、草取りに参加する程度に留まっている。自治会には、広報誌を配布している。	コロナ禍の収束を待って従来交流が図られていた自治会や保育所、学校などの交流再開を目指すとともに、住宅地に位置する利点を活かし、事業所が有する認知症高齢者支援の専門性を広く地域へ発信する取り組みを進められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でもあり、外部への知識等のフィードバックは出来ているとは言い難い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議結果を会議録を職員に回覧しているが現在は文書開催のみで、委員の方からの意見が出ることも少ないため、会議の内容を生かせているとは言い難い。	委員は、自治会役員、民生委員、市長寿社会課職員、家族代表で構成されている。コロナ禍のため書面開催とし、利用者の生活状況や事故報告等の資料を郵送している。併せて意見や感想を求めているが、返信はない状況である。	運営状況の報告に加え、夜間想定訓練での避難誘導時の人手不足や活用しきれていない畑など、事業所が抱える課題を提起し、委員から様々な角度からの意見をいたく会議にすることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿社会課の方に運営推進会議の委員となって頂き、助言を頂ける体制をとっている。	市役所とは、文書やメールで情報を得たり連絡し合っている。要介護認定申請の際や相談がある場合には、ケアマネージャーが直接訪問して相談・支援を受けられる良好な関係にある。コロナ禍対策として、マスクや消毒液・抗原検査キットの提供を受けている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、ベッドからの転落の不安のある入居者には居室のドアを少し開けた状態とし、異変にすぐ気づけるようにしている。また、そういったリスクの高い利用者様をご家族同意の上で職員の目の届きやすい居室へご移動頂いたこともある。 身体拘束に関する内部研修も実施している。	職員全員で構成する、身体拘束防止委員会を設置し、毎月のスタッフ会議を活用し年4回開催している。研修会は年2回開催し、言葉による行動抑制に関し利用者の心理に配慮した声掛けの工夫について話し合いながら、日常の支援を振り返っている。夜間は、安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修(国内の虐待に関する報道記事等活用)や、職員同士情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持ち虐待が見過ごされる事がないよう防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、対象の方が入居された時は職員含めて学習しているが、現在は職員全体での理解はすすんでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居申請の時に概要を説明し、契約の際は重要事項説明書、契約書にて説明を行い理解、納得して頂くように努めている。 契約内容への疑問があれば随時問い合わせ頂くよう併せてお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会記録簿に記入欄を設けている。また来訪時や外部評価の「ご家族からのアンケート結果」からお話が出た案件は、職員会議や運営推進会議に報告し意見を聞き改善に繋げている。	電話による家族からの要望や思いは、記録に残し申し送り事項として職員間で共有している。通院付き添いに家族が来所した際には、コミュニケーションを多くとり、意見や要望を汲み取るようにしている。利用者の生活の様子が分かるように施設便りを年3回発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者はスタッフ会議・申し送りの際など、随時職員からの意見や提案を聞き介護の方針・業務に反映させている。	利用者支援に関わる事項については、日常的に職員個々が自由に提案し、勤務職員で話し合い試行し記録に残している。その試行結果を検証し、前に戻すこともある。管理者は、定期的な個別面談を実施していないが、日頃から職員個々と話す機会を多く取るように意識しており、勤務時間の調整、資格取得の希望などを把握し希望の実現に努めている。	

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。(例:年次有給休暇を取得しやすい環境作り)「行動計画策定」をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じそれぞれの職員が研修の受講や勉強会に参加できるよう配慮している。また、資格取得(介護福祉士、介護支援専門員等)の推奨も行っており、合格時には祝い金を支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会、勉強会、交換研修に交替で参加している。また、見学や研修等の受け入れも随時行っている。(コロナ禍以降は実施できていない)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で、要望等を把握し、出来るだけ本人が安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申請時、施設見学、通院(救急)対応などの際に、ご家族の意向や悩み等を確認し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に入居が妥当か検討している。入居判定基準として本人、家族状況を鑑み現状の生活が困難と判断した場合となる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除、洗濯物畳み、後片付け作業やリネン交換等の時は、できる範囲で参加していただいている。会話の機会を多くして、信頼関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身の状況を必要に応じてご家族にお伝えし、時には面会や通院の要請をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類からの電話の取次ぎや、窓越し、距離を取っての面会など、コロナ禍でも出来る限りの関係継続を心けている。	生活歴や日々の会話から馴染みの人や場を把握し、ケース記録に記して職員間で共有している。かかりつけ医の待合室や家族と行ったお墓参りで、馴染みの人に会ったとの話をされることもある。ミニドライブの際には、利用者の馴染みの場所をコースに入れるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や状態変化に応じて、ホール等の談笑スペースの配置を変更する等、随時工夫している。また孤立する事が無いようにスタッフが声掛けをし、支えあうような支援につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の受け入れ先が決まるまで、相談、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握し、ご家族の意向を確認して常に訴えを聞きながら対応している。	大半の方が、言葉で思いや要望を伝えることができる。利用者が発した言葉や表情の変化などを記録に残し、職員間で共有し支援に活かしている。利用者本人の希望や表情をみて洗濯物たたみや雑巾がけ、モップ掛けを一緒に行うこともある。把握した内容が、家族の協力が必要な場合には、家族に相談し思いが叶うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り可能な部分の情報を収集し把握している。(一人暮らしの方が多く、曖昧な部分もある。)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録や個別バイタル、食事、排泄記録簿に記載している。また、申し送り等で随時の情報共有に努めている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡、ケア会議時に話し合い、本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	日々の記録を参考に、毎月ケアマネがモニタリングを行い、勤務職員全員が参加するケア会議で利用者の状態の変化に対応したケアプランとなっているかなどについて話し合い、3ヵ月毎に見直しを行っている。利用者の状態に変化がある場合には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は基本的に3ヶ月毎、毎月のモニタリングで必要に応じ変更や対応方法の検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方でご家族が接触できない場合など対応困難な際に、通院や検診等の送迎を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんを毎回運営推進会議に設定し、文書での運営内容の提供を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じホームでのご様子を文書で担当医に届けている。体調、薬、について疑問がある際は、医師、薬剤師に指示を仰いでいる。	家族が遠方の1名を除き、通院には家族が同行している。通院時に必要な情報は文書化して提供しており、通院結果についても確認し記録に残し職員間で共有し支援している。通院後、疑問がある場合には、医師、薬剤師に連絡確認することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職との連携なし。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は地域連携室との連絡を随時実施し、情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応を説明して入居していただいている。現況、状態低下が著しかったり看取りが必要な場合等はホーム利用は困難であることを説明し、他の施設への申し込みを勧めている。	入居時に重度化した場合の対応について説明し同意を得ている。会社の方針として、訪問診療や訪問看護の導入は考えておらず、看取りはしないとしている。重度化が進んだ場合には、医師の意見も踏まえて家族と相談し、次の生活の場の確保に努めている。急変時の対応マニュアルを作成し職員間で確認し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは交代で普通救命講習会を受講している。(コロナ禍で近年は受講なし)また急変時対応マニュアルを備え勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間職員独り体制を想定し、防災訓練を行っている。停電に備え、反射ストーブやカセットコンロを備えている。また、食料品の備蓄も始めている。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を行い、うち1回は消防署立ち合いで行っている。消防署に加え職員も登録している自動通報システムを使った通報訓練も実施している。コロナ禍前は、近隣の数人の方の協力をいただいて訓練を行っており、コロナ禍が落ち着いたら、前の体制に戻したいとしている。非常用に食糧、水、ストーブ、コンロ等を備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際の声掛けや、入浴、排泄時等には利用者一人一人のプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛け手ている。(目での合図、言葉掛けの工夫等)	利用者一人一人を敬い、親しき中にも礼節を持って接している。トイレ誘導では利用者の羞恥心に配慮し、安心できる声掛けをしている。居室に入る際はノックして確認し、プライバシーに留意した対応を励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望を聞くように努めている。また希望の訴え、自己決定を促し実現できるよう対応している。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんが就寝した後も、ホールで新聞を読んで過ごされる方などいらっしゃる。朝も利用者様の起床に合わせているものの、食事に遅れそうな場合などはこちらで起床を促すこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの身だしなみを整えられるように話を聞きながら支援している。約2ヶ月に一度の出張理容では、本人の希望やご家族からの話を聞いて伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握し、本人の咀嚼力に対応した物を提供している。食事前に口腔体操等を実施している。	利用者の嗜好も参考に、職員が話し合って献立を作っている。以前は利用者も調理に参加していたが、高齢化し今はテーブル拭き程度である。数種類のパンを揃えバイキング方式としたり、行事の際にはノンアルコールのビールや日本酒を楽しむこともある。法人内の4グループホームの食事を撮影しあい、お互いに評価してより豊かな食事になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好に合せ、メニュー変更や適正な量に配慮し提供をしている。それを踏まえ、配膳時に分かり易いよう台所へ禁忌の食品含めて一覧で掲示している。咀嚼、飲み込み等の機能低下が見られる方にはミキサー食、刻み食で対応し、摂取量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの声掛けを行い一人一人に合った口腔内の清潔保持に努めている。歯科受診等も勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせた支援の方法を話し合いし自立に向けた取り組みをしている。(排泄のサインを見逃さない誘導。夜間のトイレ誘導。ポータブルトイレの設置。尿とりパット、オムツの使用についても随時検討している)	介助が必要な1人を除き、歩行器使用者も含め殆どの方がトイレで排泄している。全員がリハビリパンツを着用し、多くの方がパットを併用している。オムツは夜間も含めて使っておらず、トイレでの排泄を支援又は介助している。排泄確認表には健康チェックの意味を含めて記録している。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表や個々に聞き出し対応している。水分補給をこまめにする、掃除等生活の中で動く機会を作る、主治医の指示を踏まえて下剤服用のタイミングを工夫するなど、ホーム全体で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴出来るように計画している。又、個人の要望に応える様努めている。(入浴の順番、お湯の温度等)	週2回午後入浴とし、利用者の希望で入浴順や湯の温度を調整している。入浴は職員と1対1でゆったりとしながら会話を楽しめる時間となっている。入浴を嫌がる時は、時間や日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れ過ぎない程度に活動を援助し、午睡のし過ぎなどによる夜間時の不眠防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の説明書を確認し服薬介助をしている。体調に変化が見られた場合などは医師、家族と連携を取り、服薬内容を考慮頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が出来る作業(掃除、洗濯畳み等)を支援している。ドライブ、レクリエーションなどや散歩等で気分転換ができるようにしている。職員が自ら調べてレクリエーション道具を自作するなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日はレクの日として設定しており、天気の良い日はドライブ(感染対策として人のいる場所では降車しない)を多く実施している。状況に応じてご自宅周辺をドライブすることもある。	天気の穏やかな日には少人数で近隣の散歩やプランターの花の世話をしたり、庭に置かれたベンチに腰掛けて日光浴を楽しんでいる。花見や紅葉を見にドライブに出かけ、意識的に利用者の馴染みの場所や商店街をコースとし気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則備品は立替払いであり、現在個人で金銭を所持されている方はいらっしゃらない。(極少額自室で所持されてる方はいらっしゃる)		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をお取次ぎするなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に応じた飾りを作成、レイアウトし、家庭的な雰囲気を演出している。 各利用者様の関係性等から随時座席変更等も実施しており、ストレスが少なくなるよう工夫している。	リビング兼食堂は、天窗から日が差し込む明るく開放的空間である。3台のテーブルとソファが置かれ、エアコンと床暖房で快適な温度・湿度が保たれている。季節感のある掲示物が壁面に飾られている。大きな日めくりカレンダーと献立表が掲示され、日付の確認と食べる楽しみがイメージされる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、東ホールに椅子、ソファを工夫して配置しており、気の合う方同士で談笑頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、テレビ等馴染みの物や思い出の品やご家族の写真が置かれている。	ダンスとレンタルのベッドが備えられ、テレビ、仏壇、家族写真、使い慣れた小物等を持ち込んでいる。職員と一緒に清掃をする利用者もいる。コロナ禍で家族が入室出来ないため、季節毎の更衣や整理は職員と一緒にいき、居室を気持ちよく保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立した生活が支援できるように居室のレイアウトなどを随時工夫し、変更を加えている。		